

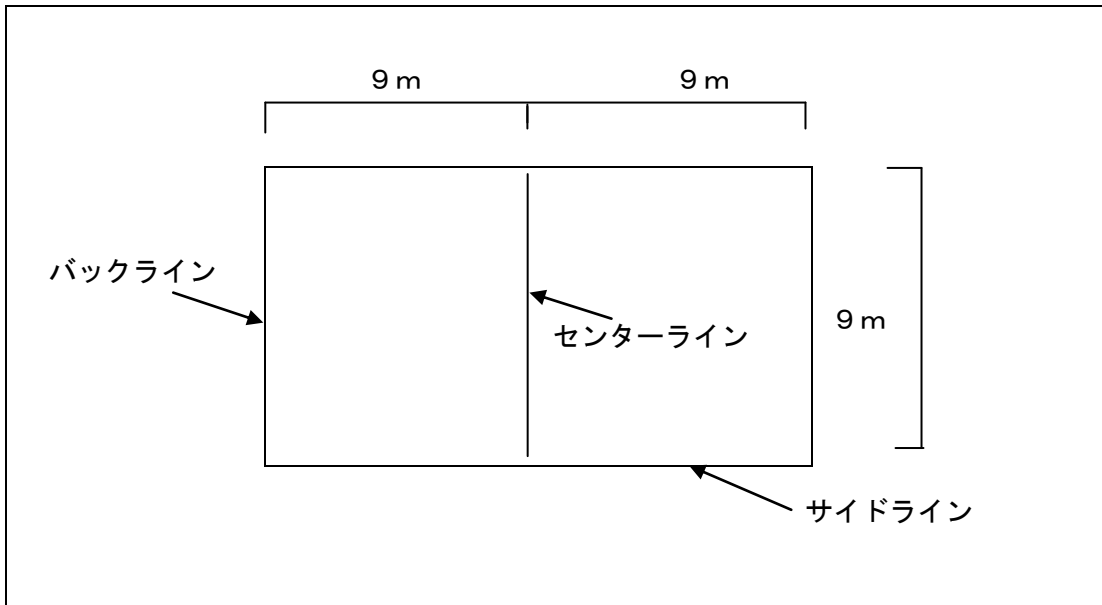
第24回わいわいスーパードッジボール 大会ルール

(1) チーム

1チームは7名です。試合は7名 対 7名 で行われます。

(2) コート

コートの大きさは図のとおりです。



(3) 試合時間

1試合5分間とします。

試合終了後に内野の人数が多いほうが勝ちとします。

試合時間内に内野全員がボールに当たって、内野の数がゼロになった場合には、その時点で試合終了とします。

(4) 抗議アピール

監督・選手・観客等は審判に対し、抗議・アピールすることはできません。

(5) 試合開始時のボールと所有権

試合開始前には、整列し大きな声で「お願いします」と挨拶し相手チームと握手をします。

試合はボール件争奪ジャンプボール対決から始まります。

上記の勝者が試合開始時のボール所有権を得ることができる。

(6) 元外野

元外野は最初一人です。

元外野も相手の内野の選手をアウトにしなければ自分の内野に戻れません。

元外野は当てだめができませんので外野が二人以上の時、相手に当てる事により、初めて内野に戻ることが出来ます。

外野は最小一人必要ですので外野が一人の場合は、相手を何人当てても、内野に戻れません。

(7) 攻撃とアウト・セーフ

- ・ジャンプボールをした人を、相手選手は1投目で攻撃してはいけません。
- ・相手のノーバウンドの投球を取れなかったり、当てられた場合にアウトになります。
- ・1回のノーバウンドの投球で2名以上あたった場合は、最初の1名がアウトになります。
- ・2人目はセーフとなります。顔や頭（肩より上）にボールが当たった場合はセーフです。
- ・しゃがんで頭・顔に当たった場合もセーフです。但し、着衣に当たった場合はアウトになります。
- ・1回味方に当たったボールを、ノーバウンドで味方が取った場合は当たった子もセーフです。
- ・顔や頭の高さにきたボールを手で防いで当たった場合はアウトとなります。
- ・相手が投球した時に反則があった場合は、当たってもセーフです。
- ・相手にボールが当たって、外にボールが出た場合は、当てられたチームからプレーを開始します。
- ・相手にボールが当たっても、相手チーム・自チーム問わず、ノーバウンドでボールをキャッチした場合はセーフとなります。
- ・女の子で髪の毛が長い子も肩より下の髪の毛にボールが触れた場合はアウトとなります。
- ・アウトになったら一旦プレーを止め、アウトになったチームからプレーを開始します。

(8) 外野ボールの支配権及び攻撃方法

センターラインを中心にして、外野へ飛んだボールの支配権を決めます。

外野からの投球は必ずバックラインから行うものとし、サイドラインからの投球を行った場合は相手のボールとなります。

(9) 内野への復帰

外野の選手が、相手の内野の選手をアウトにした場合、味方の内野へ復帰できます。

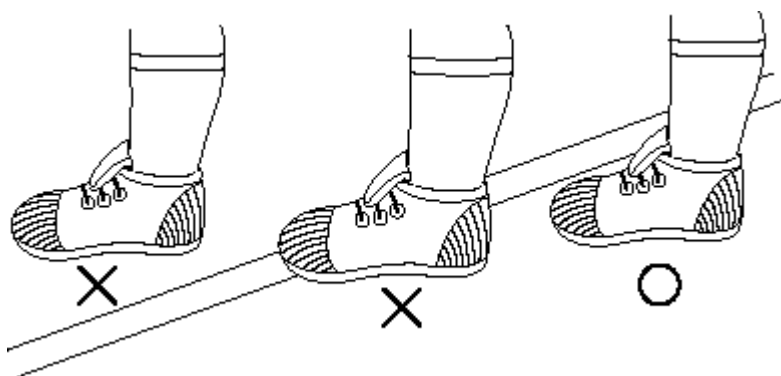
この場合、直ちに内野へ復帰しなくてはなりません。外野が一人の場合は、内野に復帰できません。

(10) ファールとボールの支配権（反則行為）

「1」オーバースローライン

ボールを投げるとき、ラインを踏んだり、超えてはいけません。

投球後もラインを踏んだり、超えてはいけません。 →相手のボールになります。



「2」オーバーラインキャッチ

ボールを取る時に、ラインを踏んだり超えてはいけません。→内野・外野問わず相手のボールになります。

「3」ホールディング

相手のコートに転がっているボールをかき寄せて拾ってはいけません。（空中はO. Kです）

→ボールのあったところのボールになります。

「4」内野同士外野同士のパスの禁止（ダブルパス）

味方の内野同士・外野同士のパスは禁止いたします。→相手の内野ボールになります。

「5」時間かせぎのパスの禁止

味方同士の内野・外野間のパスは、3回までといたします。

4回行った場合は、相手の内野ボールになります。

但し、相手の内野に攻撃をした結果、味方の内野及び外野にボールが渡った場合はパスと見なしません。

基本的には肩より上のボールはパスとみなしますが、主審の判断により決定します。(主審がパスとみなした場合は、手を上に挙げて指で回数を表示し、カウントします)

「6」5秒ルール ※こちらはタイムウォッチを使用して副審が行う。

ボールを取ってから5秒以内に投げなければなりません。→相手の内野ボールとなります。

「7」タッチ・ザ・ボディー

試合中、わざと相手の選手に触れてはいけません。→相手のボールとなります。

(11) プレーの中断と再開

「1」プレーが止まったときは、両手でボールを持ち頭より上に挙げ、主審の笛の合図の後に、プレーを再開します。

「2」選手以外の方が、ボールに触った場合はプレーをいったん中断し、主審の笛の合図の後にプレーを再開します。

「3」ファウルプレー（反則行為）をした場合は、いったんプレーを中断し、主審の合図でプレーを再開します。

「4」その他、怪我などによりプレーが中断した場合は、主審判断のもとに、プレーを再開します。

(12) 試合終了

審判のホイッスルで終了とします。

ホイッスルと同時に選手の手から離れたボールは有効とします。

試合が終わったら選手には座ってもらい主審が人数の確認をします。

その後、整列をしてありがとうございました。の挨拶と握手を交わしお互いの健闘を称えます。

(13) 決勝リーグで決着がつかなかった場合

決勝戦を除き全員のじゃんけんとします。

(センターに並び、一斉に行います。)

じゃんけん方法は、対面の相手と一対一で行います。欠員の場合は不戦勝になります。

仮に7名対6名で対決した場合、1名は不戦勝として1勝にカウントします。

決勝戦は3分間のサドンデスとします。内野の数がゼロになった場合には、その時点で試合終了とします。